

=== T A C S 情報 第2号 ===

(Toyama Agricultural Cultivation Management Information System)

令和7年6月3日

農業技術課 広域普及指導センター

1 気象経過

(1) 気温

5月上旬の平均気温は、15.4℃（対平年差-0.9℃）と平年に比べ低かった。

5月中旬の平均気温は、20.0℃（同+2.8℃）と平年に比べかなり高かった。

5月下旬の平均気温は、17.8℃（同-1.2℃）と平年に比べ低かった。

(2) 降水量

5月上旬の降水量は、52.0mm（対平年比119%）と平年並であった。

5月中旬の降水量は、29.5mm（同69%）と平年並であった。

5月下旬の降水量は、40.5mm（同112%）と平年並であった。

(3) 日射量

5月上旬の平均全天日射量は、19.2MJ/m²/日（対平年比108%）と平年に比べ多かった。

5月中旬の平均全天日射量は、19.3MJ/m²/日（同106%）と平年に比べ多かった。

5月下旬の平均全天日射量は、16.8MJ/m²/日（同88%）と平年に比べ少なかった。

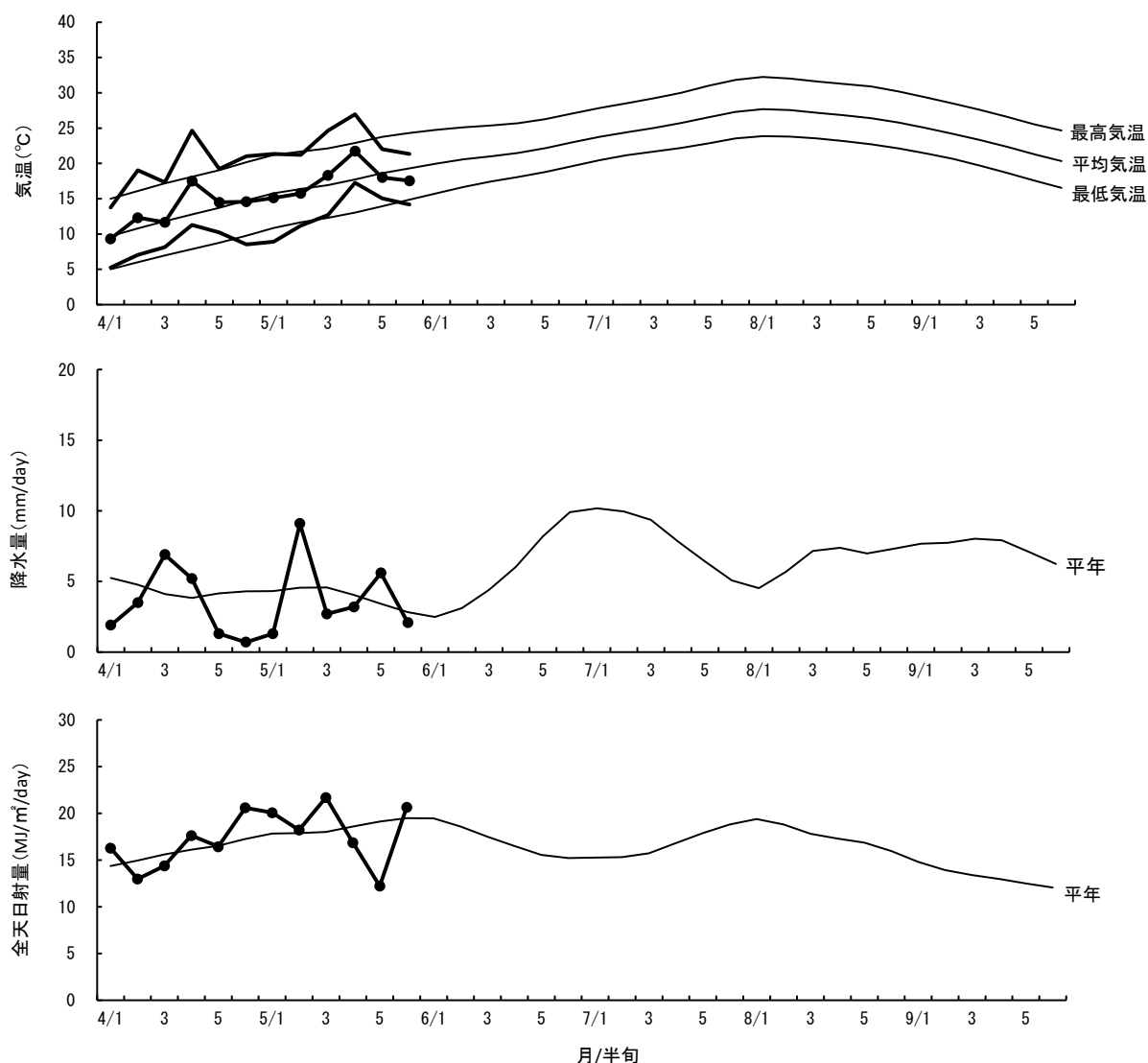


図1 令和7年の気象経過（富山地方気象台）

2 生育状況（生育観測ほデータ）

（１）コシヒカリ

平年に比べ、草丈、茎数、葉齢は並、葉色はやや淡くなっている。

表1 「コシヒカリ」の生育状況（6月3日 生育観測ほ）

年次	田植日 (月/日)	草丈 (cm)	茎数		葉齢	葉色	
			(本/株)	(本/m ²)		葉色板	SPAD
R7	5月13日	27.2	8.0	171	6.0	4.0	30.9
R6	5月14日	26.6	6.1	130	5.6	4.1	29.5
平年	5月14日	27.4	8.0	175	6.0	4.1	34.1
前年比・差	-1	102	131	132	0.4	-0.1	1.4
平年比・差	-1	99	99	98	0.0	-0.1	-3.2

注) 平年 : H27~R6年の平均

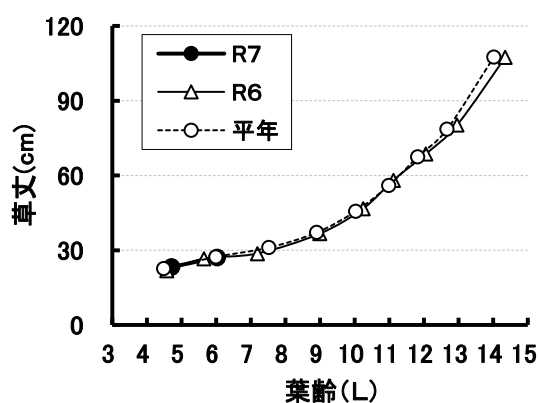


図2 草丈の推移（生観コシヒカリ）

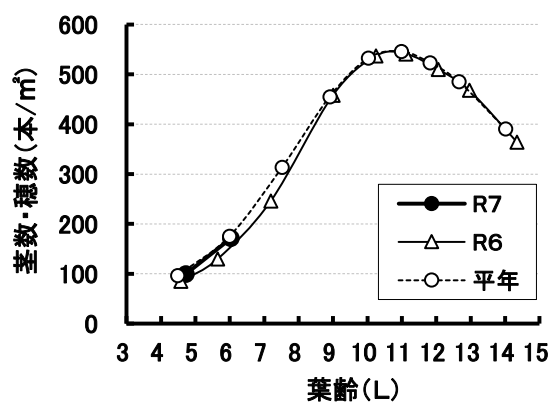


図3 茎数の推移（生観コシヒカリ）

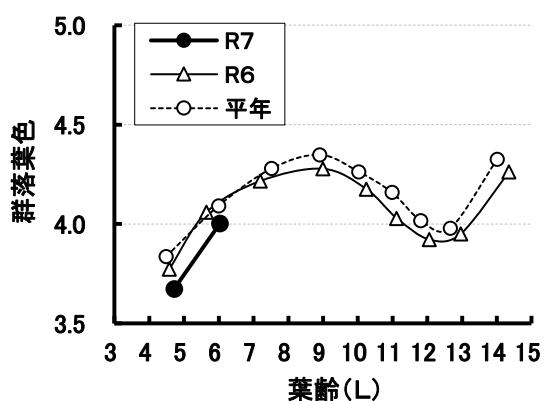


図4 葉色の推移（生観コシヒカリ）

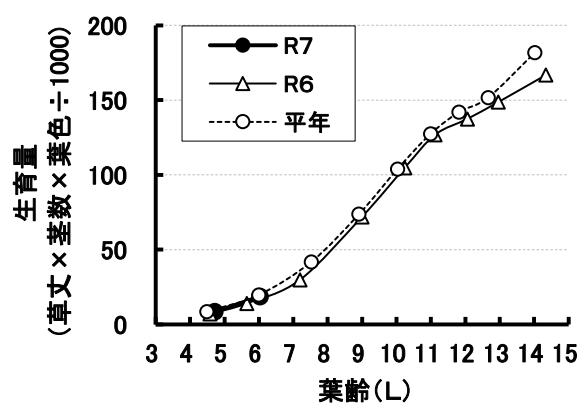


図5 生育量の推移（生観コシヒカリ）

(2) てんたかく

平年に比べ、草丈、茎数、葉齢は並、葉色はやや淡くなっている。

表2 「てんたかく」の生育状況（6月3日 生育観測ほ）

年次	田植日 (月/日)	草丈 (cm)	茎数		葉齢	葉色	
			(本/株)	(本/m ²)		葉色板	SPAD
R7	4月30日	27.9	14.3	294	7.7	4.3	36.4
R6	5月2日	26.7	11.9	255	7.8	4.3	38.7
平年	5月3日	27.8	13.9	298	7.7	4.4	39.6
前年比・差	-2	105	120	115	-0.1	0.0	-2.3
平年比・差	-3	101	103	99	0.0	-0.1	-3.2

注) 平年 : H27～R6年の平均

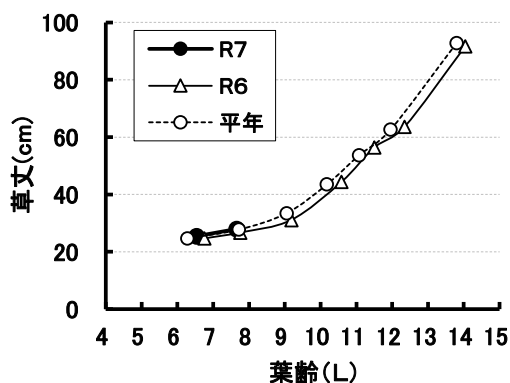


図6 草丈の推移（生観てんたかく）

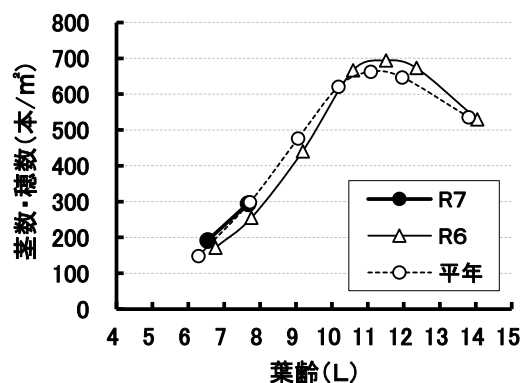


図7 茎数の推移（生観てんたかく）

(3) てんこもり

平年に比べ、草丈は短く、茎数はかなり少なく、葉色は淡く、葉齢は1.1葉遅れている。
葉齢を揃えて比較すると、平年に比べ、草丈、茎数は並、葉色は淡くなっている。

表3 「てんこもり」生育状況（6月3日 生育観測ほ）

年次	田植日 (月/日)	草丈 (cm)	茎数		葉齢	葉色	
			(本/株)	(本/m ²)		葉色板	SPAD
R7	5月12日	21.7	8.1	160	6.1	4.1	33.1
R6	5月8日	25.3	10.3	193	7.0	4.4	34.3
平年	5月8日	25.0	12.9	244	7.2	4.4	37.9
前年比・差	4	86	79	83	-0.9	-0.3	-1.2
平年比・差	4	87	63	66	-1.1	-0.3	-4.8

注) 平年 : H27～R6年の平均

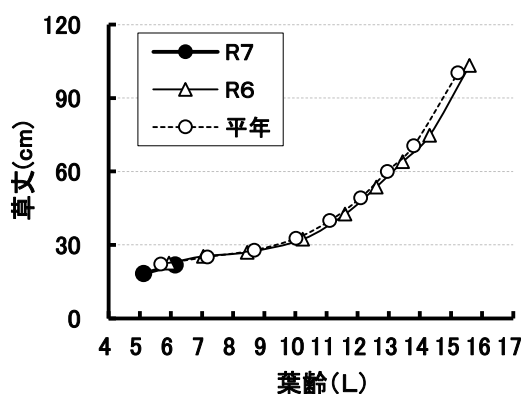


図8 草丈の推移（生観てんこもり）

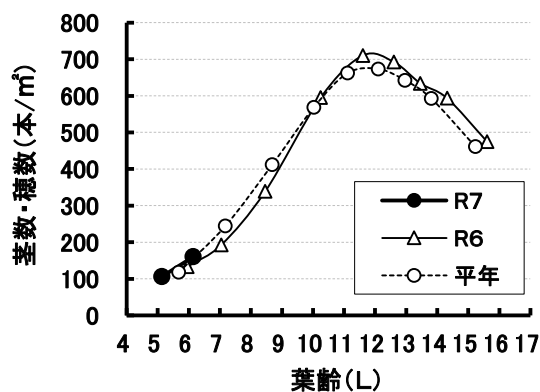


図9 茎数の推移（生観てんこもり）

3 当面の技術対策

- ・溝掘り・中干しまでは浅水管理の徹底により分げつを促し、生育を確保する。
- ・根の生育促進と無効分げつ抑制のため、田植え後4週間までに中干しを遅れずに開始する。
- ・中干し後は間断かん水を実施し、葉色を適正に誘導するとともに地耐力を確保する。

(1) 溝掘り・中干しまでの浅水管理の徹底

- ・溝掘り・中干しまでは2～3cmの浅水管理により水温の上昇に努め、分げつを促し生育を確保する。

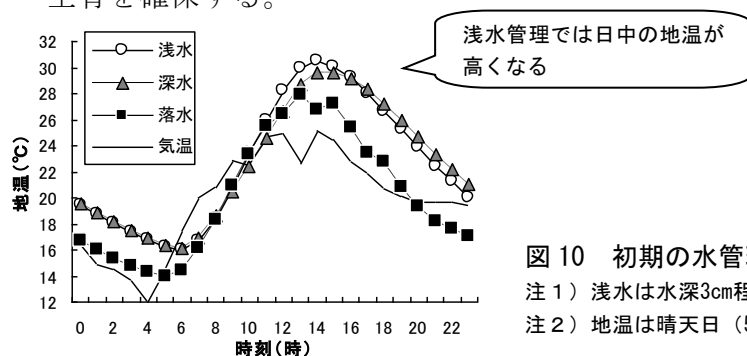


図10 初期の水管理が地温に及ぼす影響 (H24 農研)

注1) 浅水は水深3cm程度、深水は5cm程度

注2) 地温は晴天日(5/27) 5/27に地中3cmで測定

(2) 適期の溝掘り・中干しの徹底

①「てんたかく」、「てんこもり」等の田植時期の早いほ場の管理

- ・中干し開始時期を迎えているほ場(田植え後1か月頃)では、早急に中干しを実施する。

②「コシヒカリ」の管理

- ・田植え後3週間を目安に入水を止め、田植え後4週間までに溝掘りを行う。
- ・中干しは田植え後4週間までに確実に開始し、根の生育を促すとともに無効分げつを抑制する。

表4 溝掘りと中干し開始の目安

田植日 (月/日)	溝掘り期間 (月/日)	中干し開始時期 (月/日)
5/10	5/31 ~ 6/7	6/7
5/15	6/5 ~ 6/12	6/12
5/20	6/10 ~ 6/17	6/17

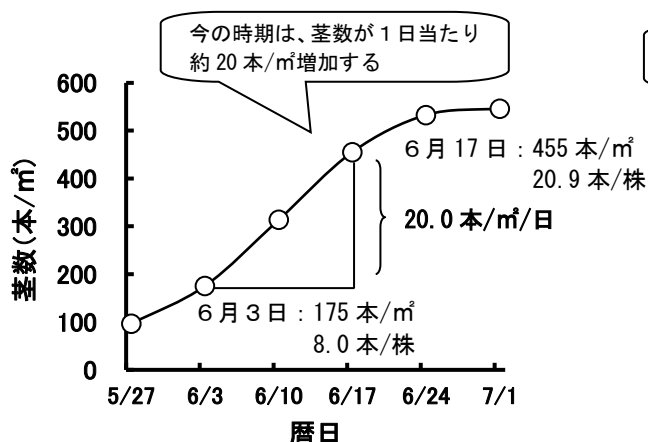


図11 茎数の推移(生育観測ほ平均値)

注) H27～R6の平均

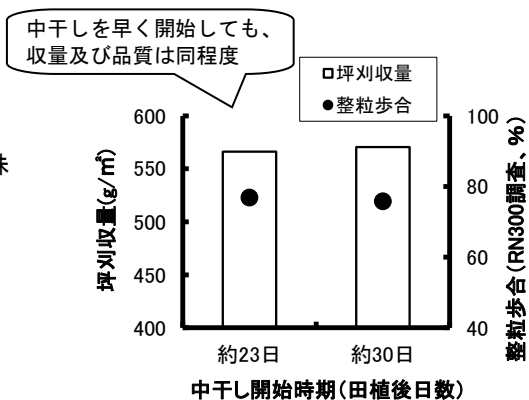


図12 中干し開始時期と収量及び品質の関係 (H23、24 農研)

注1) 砂壤土、粘質土、黒ボク土、黄色土の平均

注2) 中干し開始時の茎数 約23日: 143～176 本/m²
約30日: 300～386 本/m²

(3) 適正な田干しによる葉色低下の防止

- ・中干しは一度に強く干し上げず、「田面に小さな亀裂が入る程度」の田干しを数回繰り返す、地耐力を高める。
- ・中干し後は間断かん水を行い、幼穂形成期頃までに足跡の深さ3 cm 程度の土壌硬度とする。
- ・高温時は中干し期間が長すぎる等、土壌を乾かし過ぎると葉色が低下するため、干し過ぎに注意する。



中干し終了時に、ほ場中央部でくるぶしまで軽く沈む程度を目安とする

写真 中干し終了時点のほ場の状態

(4) 病虫害防除

①斑点米カメムシ類

- ・越冬前の発生量が多く、春先からの好天により、畦畔や雑草地における越冬後の斑点米カメムシ類の発生がかなり多くなっている。
- ・今後、気温の上昇に伴い発生量が多くなると見込まれる。カメムシ類の増殖を抑えるため、イネ科雑草が出穂しないように草刈り等、畦畔・雑草地の除草対策を徹底する。

※草刈り運動期間：6月27日（金）～7月6日（日）

一斉草刈り日：6月28日（土）～6月29日（日）

- ・本田内のノビエやホタルイは斑点米カメムシ類の繁殖源となるため、水田内雑草の発生状況に注意し適切な除草対策を行う。
- ・麦あとほ場はカメムシ類の繁殖好適地となるため、雑草が繁茂しないように管理するとともに、積極的に大豆や園芸作物、緑肥等を栽培する。

②イネミズゾウムシ

- ・発生がみられる場合は要防除水準（本田発生盛期の寄生成虫密度 3頭/10株）に基づき防除要否を判定し、速やかに防除する。

③いもち病

- ・本田内の補植用苗はいもち病の発生源となるので、早急に取り除き処分する。
- ・箱施薬剤等を施用していない場合は、予防粒剤（抵抗性誘導剤）を6月中旬頃までに散布する。
- ・BLASTAM情報（農業研究所）を参考に常発地を中心に巡回し、葉いもちの発生がみられたら直ちに防除する。

※平年の葉いもちの初発確認日は7月10日（R6：7月10日）

BLASTAM 情報（葉いもち予測システム）はこちらから
（農林水産総合技術センター農業研究所HPの研究関連情報に掲載）



④紋枯病

- ・前年多発したほ場等では、出穂3～4週間前の粒剤散布や穂ばらみ期の防除を行う。

※平年の紋枯病の初発確認日は6月26日（R6：7月5日）

「富富富」の生育状況と当面の技術対策について

1 生育状況（生育観測ほ等データ）

近年に比べ、草丈は並、茎数はかなり少なく、葉色は淡く、葉齢は0.4葉遅れている。

葉齢を揃えて比較すると、近年に比べ、草丈、葉色は並、茎数は少なくなっている。

表1 「富富富」の生育状況（6月3日 生育観測ほ等）

年次	田植日 (月/日)	草丈 (cm)	茎数		葉齢 (L)	葉色	
			(本/株)	(本/m ²)		葉色板	SPAD
R7	5月16日	23.6	5.5	120	5.4	4.1	29.7
R6	5月17日	23.6	5.6	124	5.2	4.0	30.5
近年	5月15日	24.9	7.5	160	5.8	4.2	34.1
前年比・差	-1	100	97	97	0.2	0.1	-0.8
近年比・差	1	95	73	75	-0.4	-0.1	-4.4

注1) R7：10ほ場平均（生育観測ほ：4ほ場、新品種実用化・プラ削減 対照区：6ほ場）

注2) 近年値：H29～R6 平均

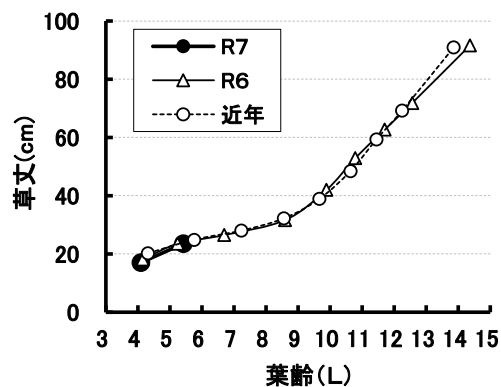


図1 草丈の推移（生育観測ほ等）

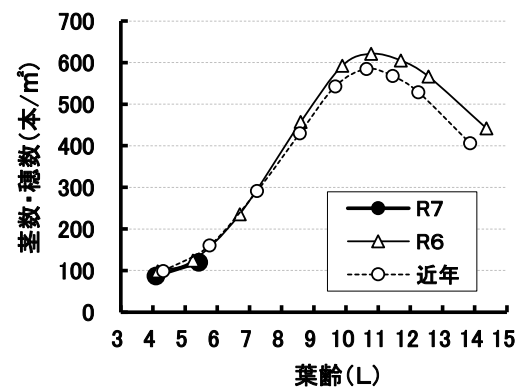


図2 茎数の推移（生育観測ほ等）

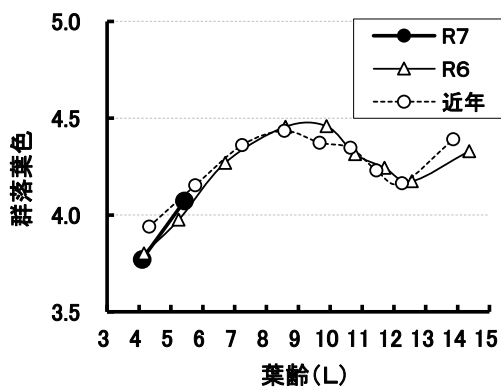


図3 葉色の推移（生育観測ほ等）

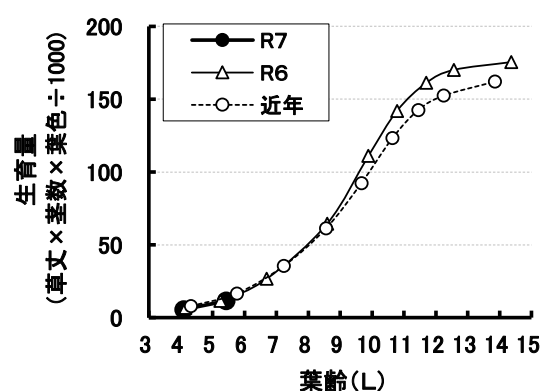


図4 生育量の推移（生育観測ほ等）

2 当面の技術対策

- ・ 現在、茎数が平年に比べ少ないことから、溝掘り・中干しまでは浅水管理により水温の上昇に努め、分けつを促す。
- ・ 田植え後4週間までに中干しを確実に開始し、根圏の健全化を図る。
- ・ 適正籾数に誘導するため、中干し後は幼穂形成期まで落水期間が長めの間断かん水を行う。

(1) 溝掘り・中干しまでの浅水管理の徹底

- ・ 現在、茎数が平年に比べ少ないことから、溝掘り・中干しまでは2～3cmの浅水管理により水温の上昇に努め、分けつを促す。
- ・ 富富富は苗丈が短く深水の影響を受けやすいことから、特に水深に注意する。

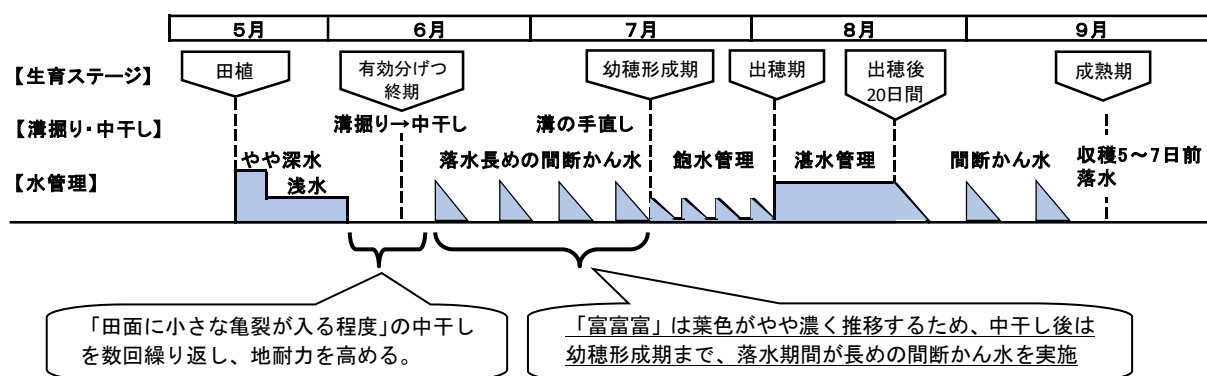
(2) 中干しの徹底

- ・ 根圏の健全化と無効分けつの発生を抑制するため、田植え後4週間までに溝掘りを実施し、中干しを遅れずに開始する。
- ・ 中干しは一度に強く干し上げず、「田面に小さな亀裂が入る程度」の田干しを数回繰り返し、地耐力を高める。

(3) 中干し後の水管理

- ・ 「富富富」は葉色がやや濃く推移し、過剰籾数により収量や品質が低下しやすいことから、中干し後、幼穂形成期までは落水期間が長めの間断かん水を行い、幼穂形成期の SPAD 値を 35（群落葉色 4.0）程度に誘導する。
- ・ ただし、令和6年度は高温による葉色低下がみられたため、高温時は干し過ぎないようにする等、気象条件に合わせた水管理（落水期間の調整）を行う。

<水管理のイメージ>



(4) その他の管理

病害虫および雑草防除は、コシヒカリに準じて実施する。ただし、生育期間を通した化学合成農薬の成分使用回数が12以内となるよう留意する。